

楽しかった!! 夏の思い出



キャンプ 楽しいぞあ〜 美味しいぞあ〜

浜田学童はだしっこクラブでは、毎年恒例行事としてサマーキャンプを行っていて、児童と保護者と学童の先生方と事前に様々な計画を立てて盛り上げています。

今年は七月十九・二十日に二十一名の児童が鶴岡市大鳥自然の家に行き、普段の生活ではできない自然との触れ合いを体験しました。

一日目のざっこしめは、前日までの雨で川が増水していて、人工の川で行いました。子ども達は冷たい水も気にせず、川を走り回り夢中になって魚を捕まえて、捕まえた魚を焼いて皆で食べました。そしてスイカ割りでは、「もっと前!!」「左!!左!!」と声を掛け合い

サマーキャンプ はだしっこクラブ(浜田)



ひと夏の思い出・ハダッ!チーズ!!!

楽しみました。キャンプに戻って、夕食後は外に出てキャンプファイヤーと花火を用意して、外の涼しさと火の暖かさを感じながら皆で一緒に過ごしました。その後一日の疲れをお風呂で落として、翌日に備えて就寝。

二日目のカヌー体験は、やはり川が増水していて近くの沼で行うこととなりました。あまり楽しめないかな?と思いましたが、子ども達には全く関係無く、「早く乗りたい!!」「次一緒に乗ろう!!」と大はしゃぎでした。

二日間で、子ども達の元気の良さと成長にとっても驚かされました。

(保護者会 副会長 佐藤 哲哉)



のびてきたぞあ〜♪

初めは、そば粉と水を混ぜる作業。慣れない手つきの子ども達は、生地作りに興味津津な様子。

次は、完成した生地をこねて、伸ばす作業。全身を使ってこねている子ども達の様子は真剣そのもの。伸ばし作業では、自分の身長くらいある麺棒を使い、一生懸命伸ばしていました。

親子レクリエーション 親子でそば打ち体験 きらめきクラブ(宮野浦)

今年度の「きらめきクラブ親子レク」は、七月二十一日に羽黒の松岡窯陶芸教室より講師の先生をお呼びして、休暇村羽黒スキー場ロッジで「そば打ち体験」を行いました。

最後は包丁切り。初めて包丁を持つ子もいましたが、お父さんとお母さんの補助もあり、上手に切れていました。

あとは講師の先生がそばを茹でている間に、片づけと食べる準備『まだかなあ』『お腹すいたあ』と待ち遠しい様子。保護者の方々も普段なかなか顔を合わせることもない他の保護者の方とお話ができて、良い時間になりました。

そしてできあがったそばを見てびっくり！形は不格好でも、一生懸命作ったそばの味は子ども達には格別だったかと思えます。

今後も、親子で楽しめる行事をみんな考えていきたいと思えます。

(親子レク班 班長 高橋 直樹)



お父さんと呼吸を合わせて♪



夏はやっぱりカレーでしょ！

にこにこクラブでは、時間的・金銭的な負担を軽減し、多くの児童と保護者に出席してほしいという願いから、夏祭り型式の夏季親子レクリエーションを七月十二日に実施しました。台風8号の影響で、実施さえ危ぶまれましたが、当日は天候にも恵まれ、120人弱の参加がありました。

みんなでカレーライス・かき氷・綿あめを食べ、ヨーヨーつりやキャラクターすくいをして楽しみました。そして今年の目玉、特別ゲストの高校生のお兄さん達にペットボトルロケットの実演をしていただきました。ロケットは、

夏祭りレクリエーション にこにこクラブ(松陵)

松陵小体育館では、紙風船たたきやフリスローゲーム、親子ドッジボール対決をして、親も子もいっぱい汗をかき遊びました。

その後、希望児童は学童に宿泊しましたが、子どもだけの宿泊で興奮のためか、なかなか寝付けませんでした。翌朝は六時前に目覚め「妖怪ウォッチ」は見逃しませんでした。

係を中心に、保護者全員が協力して子ども達を楽しませることができました。保護者同士も懇親を深めることができました。

(保護者会 会長 山田 専)



ん？ ねたふり～!?



◆材料

焼き麩(今回は車麩) 4個・黒糖大さじ2・水大さじ3・きな粉大さじ2

◆作り方

- ボウルに黒糖と水を入れてレンジで40秒加熱。
- スプーン等で混ぜて溶かしたら6分の1にカットした麩を入れて水分を吸わせる。
- 全体がぬるくらいになったら電子レンジに30秒かける。
- ボウルにきな粉を入れて麩にからませるようにゆする。

●まんべんなくからまったら、お皿に麩を盛り付けて、ボウルに残っているきな粉をまぶして完成。

◆ポイント

- 麩を使っているので、おもちよりカロリーオフ。ダイエットの時の小腹がすいた時なども満足の一品ですよ。

『もちおにゅ』の食感をお試しください。

(後藤)



全指導員が衛生管理を勉強中
(指導員の衛生研修会)



世界一！ 僕らの宝物
加茂水族館に行ったよ(バスレク・泉第2)



心肺蘇生中にAEDが到着
(指導員の救急救命講習会)

保護者会はなぜ必要なの？

「共働きで毎日忙しいのに、なぜ学童に保護者会が必要なのか」という質問を受けることがあります。

ある調査では、小学校低学年の学童児は小学校にいる時間が概ね1,140時間、学童にいる時間が1,650時間と、学童にいる時間が510時間も多いと言われています。

学童入所児童は、の関わりの時間が、の家庭より一般的に長いです。我がを願う保護者に長時間生活をして、学童を理解して、保護者会などを通して我が子と触れ合い、関わりを持つことがもっとも重要なことと思われま

がくほれん Q & A

保護者と子どもと学童入所児童以外には少ないと言わ子の健やかな成長にとって、我が子がいる学童を知り、関わりを持つことがもっとも重要なことと思われま

また、学童運営の規則でおやつ代の管理は、運営委員会以外の会計で行わなければならないことになっているため、保護者会計がその役割を果たしています。

このことから学童は、保護者の学童の日々の活動に対する理解や関わり、パワーが必要なのです。そして、学童とともにお子さんや保護者のみなさん、そしてがくほれんも一緒に成長していきたいものと思っています。

(事務局)

「AED(自動対外式除細動器)で助かる命」

今年度、当法人ではAEDを一
台購入いたしました。いつもは事
務局で保管していますが、学童保
育でのイベントや、交流事業など
で携行して頂けたらと思います。

この機械は、心室細動(しんし
つさいどう)を起こした人に電気
ショックを与えることで、正常な
リズムに戻すためのものです。心

室細動は、心臓の心室が小刻みに
震えて全身に血液を送ることがで
きない状態で、心筋梗塞や心臓弁
膜症など心臓病がある場合が多い
ですが、小児ではキャッチボール
などでボールが胸部に当たってこ
の不整脈が誘発され、突然死の原
因となることが言われています。

るように、音声が使え方を指示し、
電極パッドを貼る場所もパッケー
ジに記載されています。電気ショッ
クが必要のない場合には、ボタン
を押しても電流は流れません。

講習を受けていなくても使用で
きますが、緊急の場合には冷静に
動くことは難しいものです。救命
救急の方法は、消防署や職場・地
域の講習会等で学ぶことができます
ので、一度受けておきましょう。

(義朗)



あとかぎ

今回の「ただいま！」は各学
童の活動紹介に加え、「交通安全
全教室」や指導員対象の「AED
を含めた心肺蘇生法」、「衛生
管理講習会」などの研修活動も
ご紹介させていただきました。

このような活動が、子ども達
の安心で楽しい学童生活のため
になればと思います。(杉山)



ただいま!

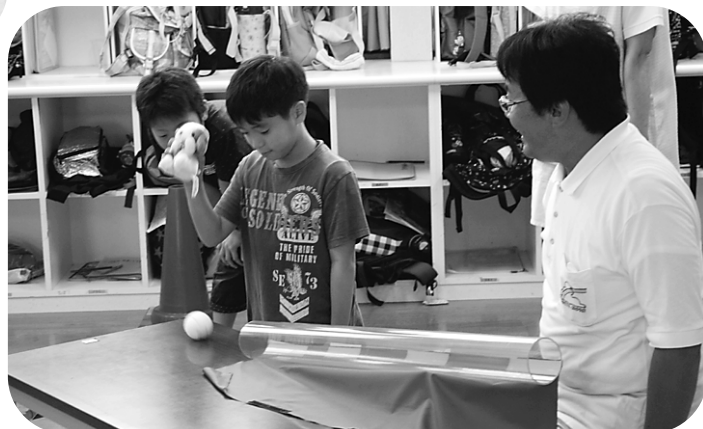
— あたたかな第2の家庭を目指して —



“真剣” いつもこのまなざしがほしい! (亀ヶ崎)



「死角」を知ったよ (富士見)



車にみたとボールがコロコロコロ
「あつ、ワンちゃん、あぶない!!」 (松原第1)



「あつ!! あ……」 (泉第1)

交通安全教室

「止まって、よく見て、確かめて」



酒田市は、「自分の命を守るには……」をテーマに交通安全教室を開催しています。がくほれんの十二の学童では、酒田市のご協力をいただき、この交通安全教室を昨年に引き続き、夏休み期間中やその前後の時期に全学童で実施しています。

本年度の講習は、クロネコヤマトの教室、本田技研工業の教室、酒田市のまちづくり推進課の教室のいずれかの講習を受けました。クロネコヤマトの講習では、宅急便のトラックに子ども達が実際に乗車して「死角」を実体験。子ども達は「見えにくい」などの歓声をあげながら、トラックの前や後に見えない部分があることを新発見。また、本田技研工業の講習では、この日のために栃木県より来ていただいた講師の先生から「止まる、よく見て、確かめて」「命を大切に」と室内での実験を交えた講習に、子ども達はクギづけにワンちゃん人形を拾い上げる実験では、人間の反応には、時間がかかることを確認。車は、すぐ止まれないことも学びました。酒田市まちづくり推進課の講習では、「飛び出し」の事故が多いことから、子ども達にとって重要な標識や交通ルール等の安全知識の向上のために、標識のカルタを使うなど工夫をこらした講習も受けました。

どの教室も、子ども達の目線に立った親しみやすい講習で、子ども達の驚きや歓声、真剣なまなざしが、印象に残る講習会でした。

(事務局)